

魚病対策指導

宇野悦央，辻村明夫，見奈美輝彦

平成3年1月から12月までの病害検査件数は計158件であり，内訳はアユ153件，アマゴ4件（白点病3，カラムナリス症1）およびコイ1件（キロドネラ症）であった。

養殖アユの病害検査状況を表1に示した。冷水病*は鰓・肝臓の貧血及び脂鱗から尾柄にか

表1 養殖アユの病害検査状況

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
ビブリオ病	1 (1)	3 (2)	1 (1)	1 (1)	2 (2)	2 (2)	2 (1)	2 (2)					14* (12) [6] *
細菌性鰓病		4 (4)	4 (4)	1 (1)	1 (1)	1 (1)							11 (11) [7]
シュードモナス病			1 (1)	1 (1)	4 (3)	12 (4)	8 (5)	1 (1)	2 (2)	1 (1)			30 (18) [9]
エロモナス症			1 (1)			1 (1)	1 (1)	1 (1)					4 (4) [2]
冷水病	4 (4)	3 (3)	4 (4)	2 (1)		1 (1)					1 (1)	9 (5)	24 (19) [12]
真菌症	1 (1)	1 (1)	3 (3)			2 (2)	5 (2)	2 (1)	3 (1)	1 (1)			18 (12) [7]
寄生虫性疾病		2 (2)	2 (2)	1 (1)	4 (4)	3 (2)		2 (2)					14 (13) [8]
その他	3 (3)	2 (2)	3 (3)	2 (2)			1 (1)	1 (1)	1 (1)				13 (13) [8]
不明	3 (3)	4 (4)	3 (3)			1 (1)	6 (5)		2 (2)	2 (2)		4 (2)	25 (22) [12]
計	12 (12)	19 (18)	22 (22)	8 (7)	11 (10)	23 (14)	23 (15)	9 (8)	8 (6)	4 (4)	1 (1)	13 (7)	153 (124) [25]

* 件数

* () 経営体数， [] 同実数

．．．
 けてのびらん，潰瘍を主徴とする疾病で，12月の湖産種苗入池後から4月までに多く24件（12経営体）確認された。腹腔内出血を主徴とするシュードモナス病は，前年まではほとんどみられなかったようであるが本年は3月から10月までみられ，特に5月から8月にかけて多く30件（9経営体）確認された。ビブリオ病は14件（6経営体）でそのうち *Vibrio anguillarum*（血清型A型）によるものが6件，*V. anguillarum*（血清型C型）によるものが5件およびその他3件であった。件数はA型によるものは昨年と同様に少なく，またC型によるものは例年並である。細菌性鰓病は11件（7経営体）で，昨年の約2倍と増加傾向がみられた。真菌症は18件（7経営体）で，内訳は水カビ病10件，真菌性肉芽腫症7件，内蔵真菌症1件であった。寄生虫性疾病は

*若林久嗣，沢田健蔵：平成4年度日本魚病学会春期大会講演要旨，p.5（1992）

カビ病10件、真菌性肉芽腫症7件、内蔵真菌症1件であった。寄生虫性疾病は14件（8経営体）で、内訳はギロダクチルス症13件、グルゲア症1件であった。両疾病は経営体において魚の状況からほぼ診断できるため、実際の件数はこれより相当多いものと推察される。グルゲア症ではかなり被害を受けた経営体もみられた。その他は13件で、内訳は過食によるもの11件、取り扱いによるもの2件であった。また、不明は昨年よりも増加傾向がみられ、病魚は鰓蓋下部の発赤または喉のソゲを伴う場合が多い。以上のように、平成3年は25経営体において153件の発生がみられ、疾病では冷水病とシェードモナス病が多かった。

分離されたビブリオ病菌（*Vibrio anguillarum*）9株の薬剤感受性を表2、3に示した。

表2 ビブリオ病菌の薬剤感受性

No.	月. 日	血清型	SMM*	OA*
1	1.28	C	3+	3+
2	2.13	C	3+	3+
3	3. 5	C	3+	3+
4	4.30	A	—	3+
5	5. 8	A	—	3+
6	5.13	A	2+	3+
7	6.13	A	—	3+
8	6.28	A	2+	3+
9	8.20	A	—	3+

* スルファモノメトキシシン

* オキシリン酸

表3 ビブリオ病菌薬剤感受性の類別

薬 剤		血 清 型		計
SMM	OA	A型	C型	
3+	3+		3*	3
2+	3+	2		2
—	3+	4		4
計		6	3	9

*菌株数

血清型C型は昨年と同様に両薬剤に高い感受性を示したが、血清型A型はオキシリン酸に高い感受性を示すものの、スルファモノメトキシシンに対しては耐性または感受性が低かった。

魚病対策指導事業に係る防疫会議は11月25日（有田市）に、魚病講習会は12月12日（那賀郡桃山町）に、また、養殖魚巡回健康診断及び防疫対策定期パトロールは平成3年4月から平成4年3月までに計47回実施した。養殖魚を対象とした医薬品残留検査は8月にオキシリン酸30検体について実施し、すべて残留は認められなかった。